群教セ	G11 － 03
	平26.254集
	特活－小

自主的・自発的に話合いに参画することができる児童の育成

――議題に対する児童の興味を促す学級活動コーナーの工夫を通して――

特別研修員　三倉　正博

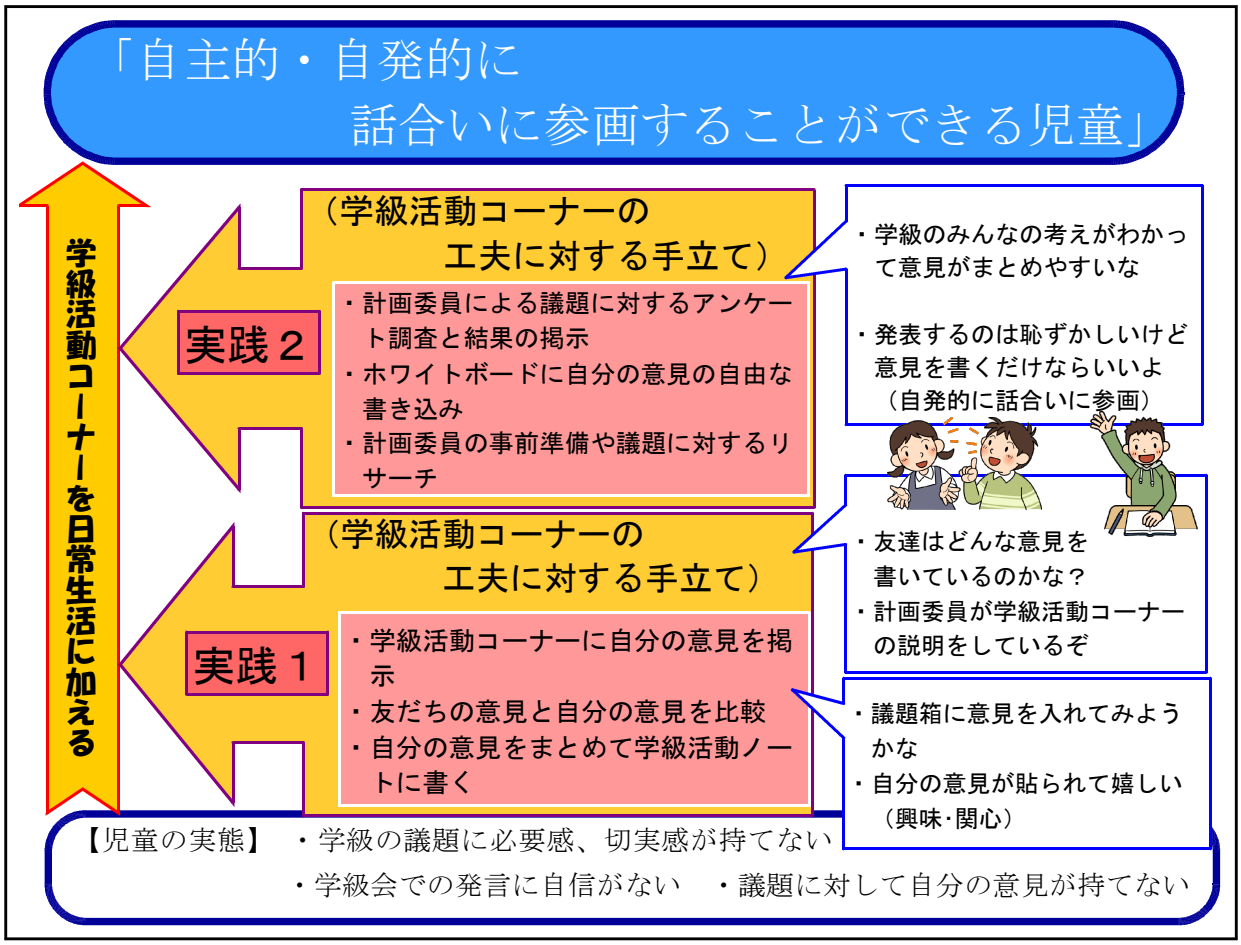
Ⅰ　研究テーマ設定の理由

平成26年度群馬県学校教育の指針では学級活動の指導の重点として「児童生徒自身が充実感や存在感を味わえるような自発的・自治的な活動を取り入れましょう」と記されている。自発的･自治的活動を行うためには計画委員会を組織し、計画委員を中心とした話合い活動を充実させていくことが必要である。

高学年の児童は自分なりの意見を持てるようになってくる。しかし、学級活動の話合いでは意見を持っていても発言しなかったり、司会者に問題解決をまかせてしまったりする姿が見られる。こういった姿は、一人一人が議題に対する意見を持てておらず、学級会に対して関心や興味が持てず、話合い自体に必要性を抱けていないからではないかと考えた。そこで、話合いへの主体的な参画を促す工夫として学級活動コーナーを見直し、興味を喚起するとともに、計画委員が積極的に学級活動コーナーを活用していくことで、自分たちの問題として興味を持って話合いに参画できると考え研究テーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図



２　授業改善に向けた手立て

⑴ 児童の興味を喚起させる学級活動コーナーの活用

①児童全員が学級目標における反省点を考え、学級活動コーナーにその反省点を掲示する。

②児童は学級活動コーナーを見て自分の意見と比較する。

③みんなの意見を読んだ上で、議題に対する自分の意見を学級活動ノートに書く。

実践１では、議題「学級活動を振り返ろう」について、学級活動コーナーを利用して話合いの議題を告知し、その議題に対する自分の考えを全員が書いて掲示した。掲示されたみんなの考えと自分の意見を比較した後に、自分の意見を学級活動ノートに書き、学級活動の話合いに参加することとした。自分の意見と違う意見を読んだり、同じような意見を見たりすることによって、自分の考えを振り返って視野を広げる。そして、深めたり広げたりした自分の意見を持って話合いに臨ませようと考えた。

⑵ 議題に対して必要感・切実感をもたせる学級活動コーナーの活用

①計画委員と担任で話合い、議題を掲示するとともに議題に対するアンケート調査。

②学級活動コーナーに計画委員がアンケート調査結果の掲示する。

③調査結果を見て、学級活動コーナーにあるホワイトボードに自分の考えを自由に書く。

④ホワイトボードの意見を読んだ上で、自分の意見を学級活動ノートに書く。

⑤計画委員はホワイトボードを読んで必要だと思われる準備やリサーチを行う。

実践２では、議題「進んで読書に取り組める方法を考えよう」を提示し、計画委員が議題に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査を集計し、学級のみんなに見やすく提示するためにはどのような方法で掲示物を作成したら良いかを計画委員と教師で話合いながら作成した。そして、アンケート調査結果を掲示するとともに、その調査結果を見て自分が考える問題点や課題点を学級活動コーナーのホワイトボードに自由に書き込むことで意見交流ができるようにした。また、ホワイトボードに書き込まれた意見を参考にして、学級の児童は自分の考えを学級活動ノートに書き、計画委員はその意見に対応して議題解決に必要な準備やリサーチを行って話合いの準備をした。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　自分の意見が掲示されることで学級活動コーナーに興味を持つ児童が多くなり、休み時間の話題にも取り上げられるようになった。話題に上ると議題に対しても自然と意識が向いてくるようになった。

また、自分の意見と友達の意見を比較することで、自分の考えを振り返り意見が深まったり変わったりする児童が出てきた。

○　アンケート調査結果を計画委員が効果的に伝えるように工夫して掲示することで、議題に対するクラスの実態が分かり、必要感や切実感を持つことができた。また、ホワイトボードに自由に記述することで、話合いの中ではあまり発言しない児童も自分の意見を書くことができ、自信を持つことができた。

２　課題

○　話合い活動を活性化するためには司会者が上手に進行していくことが大切である。話合いにおける進行の技術向上を図っていく必要がある。

○　アンケート調査やリサーチ活動をしたが提示方法で戸惑ってしまった。社会科で学習するグラフの活用や国語で学習する効果的な提示方法を活用するとともに、提示するタイミングも効果的になるような工夫が必要である。

３　提言

○　学級活動コーナーを掲示コーナーにとどめるのではなく、ホワイトボードなどを使って意見交流などを促すことで、議題に対して必要感や切実感が持てると考える。

＜授業実践＞

実践１

１　**議題名**　「学級目標を振り返ろう」（第５学年・１学期）

２　**本議題及び本時について**

学級会にあたり計画委員５名と担任とで、学級会の議題について「学級を居心地のいいクラス」にするためにどんなことを話合ったら良いか話し合った。その結果、学級目標や日直が掲げる今日のめあてが最近守られていないという意見が出され、議題として取り上げることにした。そこで、学級目標に対して現在、どのように意識して取り組んでいて、どんなところが問題なのかを全員がプリントに書いて学級活動コーナーに掲示した。そして、その掲示物をみて自分の意見と友達の意見とを比較することで、広がりや深まりが加わった自分の考えを持って話合いに臨めるようになると考え、以下のように授業を実践した。

３　**授業の実際**

⑴ 話合いに向けた準備

学級会の一週間前に、学級活動コーナーに議題「学級目標を振り返ろう」を掲示した。そして、全員に学級目標になっている三つの目標に対してどのように取り組んできたか「できたところ」「できなかったところ」「できなかった理由」の三項目に分けて個人の振り返りを書いた。それを計画委員がとりまとめて、図１のように学級活動コーナーに掲示し、帰りの会でみんなの感想を読んだ後に議題に対する改善案を自分の学級活動ノートに書いておくように提案した。

個人の感想については無記名とすることで、素直な気持ちを書いてもらえるようにした。また、教師の支援として、司会者が話合いの進行に不安を持っていたため、司会者のマニュアルを作成し、それに沿って話合いを進めていくことにした。

図１　学級活動コーナーに掲示された感想

⑵ 学級活動におけるグループ討議

４、５名の生活班で話合いのグループを構成した。個人での話合い活動に対して苦手意識が強いため、個人の話合いではなくグループによる話合いを取り入れた。グループでの話合いでは司会者、発表者が輪番制で決まっており、全員が発言することができる。まず自分の意見を発表し、その後に理由を付け加えて説明していった。全員の発表が終わった後、グループの司会者を中心として意見を一つにまとめた。その際の注意事項として「一人の意見を採用せずに、良いところを組み合わせること」を確認した。

〈話合いの視点〉　学級目標が達成できない理由を考える

グループ討議での活動の様子
Ｓ１：学級目標の「人の気持ちを考えて仲良くするクラス」について、達成できなかった理由は相手の気持ちをよく考えずにすぐ発言してしまうからだと思います。
Ｓ２：その意見でいいんじゃない？
Ｓ３：でも一人の意見じゃだめだよ。すぐ発言してしまうっていうのは自分のことを優先しているからっていう意見と同じことじゃない？
司会：３班の意見は三つの意見をたして相手の気持ちをよく考えず自分のことを優先してしまうからでいいですか。
全員：いいと思います。

15分間のグループ討議の中で、意見を出し合い、いくつかの意見にまとめることができた班もあったが、意見がまとまらず発表できない班もあった。ホワイトボードにまとまった意見を書き、黒板に掲示をしてグループの中の発表者が全員の前で発表をおこなった。発表の後、学級全体から質問や確認を求める時間を取った。この話合いでは意見がまとまった班が５班、まとめることができなかった班が２班あった。

しかし、図２のように、まとめることができなかった班も意見は書けており、意見に対する明確な理由を付け加えての発表はできないという状態であった。

図２　グループでまとめた意見

グループで話し合ってまとめた意見の内容
○横や後ろを向いてしまい聞く姿勢が意識できていないから話が聞けない。
○相手の気持ちをよく考えず自分のことを優先してしまうから。
○恥ずかしいので相手になんといっていいか分からず、相手にうまく伝えられなくて仲良くできない。
○けじめがないから。
○目標をつくる前と後でみんなの行動が変わらないから。

グループ討議が終わった後、それぞれのグループの意見も参考にして、これからどのようなことに気をつけて生活していくか個人決定をした。司会者から個人決定するときも必ず理由を書くように指示をした。５分間の個人決定の時間の後、数人に発表してもらった。最後に授業の感想を書いたが「自分から発表できて楽しかった」という感想が多かった。また、「学級活動コーナーがおもしろかった」や「自分の意見が黒板に貼られてうれしかった」などの感想がいくつか見られた。計画委員を担当した児童たちは「司会をやってすごく疲れた」「(準備を）何日もかけて学級会をしたのは初めてだったけど、また計画委員をやりたい」などの感想であった。授業が終わった後、次の計画委員のグループの女の子が「先生、次の学級会はいつやるの」と質問してきたので「今終わったばかりなのに何でそんなこと聞くの」と聞き返すと「次は私たちの（計画委員の）番だからすごい楽しみ」と言っていた。このことから、児童は学級活動に興味を持って取り組んだ様子が分かる。また、学級活動コーナーにも興味を持つことができたといえる。

(3) 学習後の振り返り

授業後、学級会で決めた個人目標を図３の目標カードに書き、それぞれが学級活動コーナーに掲示した。そして、毎日帰りの会の前に自己評価をしてよくできた順に◎、○、△で自分の目標に対する行動を１週間評価していった。学級が授業に集中できないときや、話を聞く姿勢がとれないときなどは、個人目標を確認していこうと声をかけることで学級の雰囲気が引き締まり、けじめのある行動を取ることができるようになった。

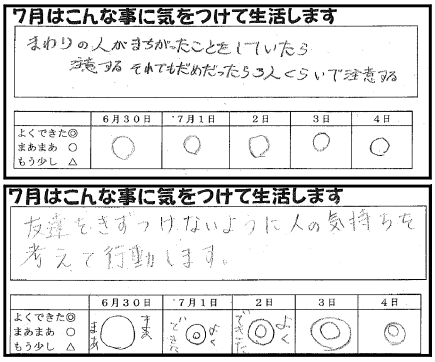


図３　個人の目標の振り返り

４　考察

自分の考えに自信が持てない児童も学級活動コーナーに意見を掲示したことで、友達の意見を読むことで自信を持つことができたり、自分の考えと比較した上で考え直したりすることができた。意見を事前に考えておいたので自分の意見をまとめることができた。グループ討議では全員が発言できた。児童全員が話合いに参加することができたことは、議題に対して真剣に向き合うための有効な手立てを計画できたと考える。実践１では個人決定になったが、集団決定の場合は個人の意見よりも全体の意識が客観的に見られる資料が必要となる。実践２では集団決定に必要となる資料の掲示を工夫し、個人の意見の比較からさらに考えに広がりと深まりをもたせられるように考える必要がある。

実践２

１　**議題名**　　進んで読書に取組める方法を考えよう（第５学年・２学期）

２　**本議題及び本時について**

本校では業前の時間を使って、週２回「朝読書」を行っている。朝読書の時間には自分の読みたい本を用意して読書に親しみ、毎月10冊以上本を読む児童もいる。しかし、朝読書の時間に歴史や偉人伝に関わる漫画を読んでいる児童も多く、地域全体で取り組んでいる「心の本 100冊運動」で推薦されているような、成長段階に応じて読んで欲しいと考える本に興味を抱く児童は少ない。これについては児童自身も気付いており、クラスの学級会の議題箱の中にも「漫画ではなく活字だけの本が読めるクラスにしたい」という意見が投函されていた。

実践１から学級活動コーナーを活用した自主的・自発的な話合いの仕方を身に付けることを目標に、計画委員を中心とした学級活動における話合い活動を進めてきた。そこで、実践１から活用してきた学級活動コーナーのあり方を捉え直し、単なる議題提示ではなく議題に対する意見を交流したり情報を提供したりするコーナーにしていくことにした。議題の提示から計画委員が主体となって学級活動コーナーを作ることで、学級全体が学級活動コーナーに更に興味をもち、学級会の前に議題に対する意見を掲示することで、自分なりの意見を持って話合い活動に参加することができると考えた。また、学級会前に学級活動コーナーを使って計画委員が情報を提供することで、議題に対する視野を広げていきたいと考えた。

３　**授業の実際**

(1) 話合いに向けた準備

計画委員と教師で議題を確認し、読書に対する学級の児童の意識や実態についてアンケート調査を行った。内容は「マンガ以外の本を読むことは好きですか」「読書の時間以外にマンガ以外の本をどのくらい読みますか」「友達が面白い本を紹介したら読んでみたいですか」の三項目とした。帰りの会でアンケートを実施し、図４のように計画委員が集計して学級活動コーナーに掲示をした。みんなに分かりやすく興味を持って見てもらうためには、グラフにした方が良いという意見だったので、教師も協力してアンケート調査結果を円グラフで表した。

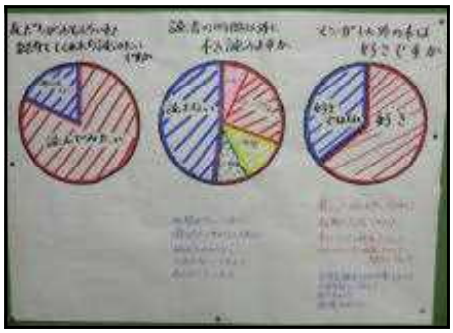


図４　計画委員が行ったアンケート

アンケート調査結果を掲示した後に、再び帰りの会を利用して計画委員から「アンケート調査結果を見て学級全体がマンガ以外の読書活動に取り組める方法や学級の問題点をホワイトボードに自由に書き込んでください」とお願いした。ホワイトボードには、その日のうちに二つの意見が書かれ、図５のように最終的に五つの意見が出された。その意見とアンケート調査結果を見て、計画委員は読書に取り組むための改善方法を考え、学級全体に紹介するために話合った。そして「本を友達に紹介していく方法」を司書教諭に聞いてまとめておいた。また、その方法を自分たちでできそうな順に「初級編」「中級編」「上級編」に分けて掲示物の準備をした。学級全体に学級活動ノートに問題点を改善するための手立てを考えて書くように計画委員から提案した。

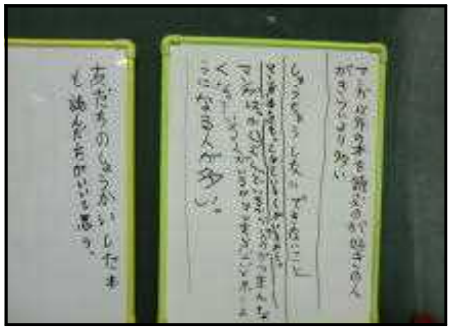


図５　アンケート結果に対する意見

(2) 学級活動

学級活動コーナーに書かれていた意見を、計画委員が集約して書き直し、黒板に問題点として掲示をした。そして、問題点を改善するための手立てを発表できる人にホワイトボードに書き込んでもらった。しかし、議題を理解していない意見が多く、議題に対するめあてである「クラスで協力して、みんなが

読書量を増やせる方法を考えよう」に、司会団が話合いの方向性を修正することがあった。話合いが始まってから、自分たちの意見がずれていることに気付き始めた児童もいたが、その場で考えを修正して意見を発表することはできなかった。そこで、計画委員があらかじめリサーチしておいた４種類の「本を友達に紹介していく方法」を紹介した。「ブックトーク」「本のショーウィンドウ」「ビブリオバトル」「ブックウォーク」の４種類である。この紹介された内容を計画委員が説明し、考える時間を取った後にどの方法に賛成するかを確認した。

学級討議での様子		
司会：「ブックウォーク」がいいと思う人は手を上げてください。	…	０人
司会：「本のショーウィンドウ」がいいと思う人は手を上げてください。	…	１６人
司会：理由が言える人はお願いします。		
Ｓ１：ともだちが読んで薦めてくれた本は興味が持てるからです。		
Ｓ２：自分がおもしろいと思った本はみんなに知ってもらいたいからです。		
Ｓ３：面白い本を知ってもらいたいし、みんなが本を読めるようになって欲しいからです。		
司会：「ビブリオバトル」がいいと思う人は手を上げてください。	…	１０人
司会：理由が言える人はお願いします。		
（なし）		
司会：「ブックトーク」がいいと思う人は手を上げてください。	…	１人
司会：理由をお願いします。		
Ｓ４：まずは自分のお気に入りの本を見付けることが大事だと思うからです。		

提示された四つの方法に対して、自分の意見を持つことはできたが理由をその場で考えることができなかった。そのため、同じ児童が何度も同じ理由を発表することになってしまい、一つの意見に集約するための話合いで意見の深まりや広がりが見られなかった。そこで、意見を出し合った後で、一つに集約するために議題のめあてである「クラスで協力してみんなが読書量を増やせる方法を考えよう」に戻って確認をした。めあてに沿った意見を確認して「本のショーウィンドウ」に決定することで学級全体が賛成したので決定とした。活動の振り返りでは「みんながどのくらい読書をしているかが分かったので考えやすかった」「計画委員が調べてくれた方法はとても良かったが、めあてに戻りながら考えるのは難しかった」などの意見が出ていた。

⑶学習後の振り返り

「本のショーウィンドウ」に取り組むことで合意したが、初めての活動なのでお手本を作成して学級活動コーナーに掲示をしておいた。はじめは自分から取組む様子が見られなかったので、本の好きな女子児童に「みんなに面白い本を紹介してみて」と話しかけたところ、１枚の作品を作ってきてくれた。その作品を学級活動コーナーに掲示すると、本のショーウィンドウの活動が少しずつ広がり、作品も集まってきた（図６）。

図６　本のショーウィンドウ

４　考察

事前に議題に対するアンケート調査やその調査結果を掲示しておくことで、児童の議題に対する興味はとても高くなった。学級活動コーナーにおける意見の交流については、全員が真剣に考えた意見を書き込んでいた。また、アンケートは計画委員が中心となって行ったことで、「自分たちで考えて作った」という意識が強くなり、話合いに対する参加意欲も高まっていく様子が感じられた。

しかし、議題に対する自由な意見が出てきてしまい、話合いに対するめあてが曖昧になってしまった。そのため、話合いの中での意見交換が少し停滞してしまった。また、計画委員がリサーチしておいたものをいつ全員に提示したら良いかのタイミングがつかめず、十分に活用することができなかった。あらかじめ掲示しておき、リサーチしたものを選ぶ話合いで深めた方が意見が出たと考えられる。準備をして児童の興味を惹くとともに、その教材をどのように扱うかが改善のポイントである。